

## 重点アプローチについて

◇当面取り組むべき重点項目と内容を明確化するもの。

### ■ I C T活用（以下の①～④を貫く重点）

Society5.0 へ対応するため、あらゆる学習の基盤となる I C T環境の整備と I C Tを活用した学習活動を充実させる。

- 効果的な学習環境の整備（児童生徒1人1台端末の整備など）
- 新たな学びの推進（グループ学習、個別最適化された学び、オンライン学習など）
- 教職員の働き方改革の推進（教員間の資料や教材の共有、We b会議など）

#### ①学校強靱化

学校教育の本質的な役割を踏まえ、新型コロナウイルス感染症等の非常時においても、子どもたちの学びを止めずに学習を継続・保障する。

- 学習継続計画の作成などの学校の危機管理力の強化
- 学びの保障（新しい教育様式の実践による学びの保障）

#### ②個別最適化

多様化する社会の中で、一人一人の子どもが自己の能力等に応じた個別最適化された学びを受けられるよう多様な学習の機会と場を提供する。

- 多様な子どもたち一人一人の能力や適性等に応じ、子どもたちの意欲を高め、やりたいことを深められる学びを提供
- 特別な支援が必要な児童生徒に対する個別支援の充実

#### ③高校改革

府立高校が選ばれる学校であり続けるために、未来を見据えた魅力ある教育内容の提供や学校の特色の更なる進化、地域社会や高等教育機関との協働による教育など、府立高校の今後の方向性等を示す。

#### ④働き方改革

教職員の業務量の軽減を図り、授業の改善や子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、より質の高い教育活動を持続的に実施する。

- 校務の I C T化等による教職員の意識改革とスキルアップ
- 多様な人材活用等の業務負担軽減で「時間外勤務月45時間、年360時間」以内を達成